

efit+ for M3 Ver.1.0.8.0 アップデート概要

2014年10月
株式会社 ニコン・トリンプル

本書では、efit+ for M3 Ver.1.0.8.0 で追加、変更された機能の概要を説明します。

■ ソフトウェア構成表

◆efit+ for M3 Ver.1.0.8.0 の製品構成は下記の通りです。

製品名	コード	備考	改良
efit+M 測量基本ソフト	B-E1-M00	基本キットに含まれます	芯出観測(2点)、角出(1点)追加
efit+M 測量観測	B-E1-M50	基本キットに含まれます	測設中に座標観測機能追加 他
efit+M 測量計算	B-E1-M51		
efit+M 線形計算	B-E1-M52		
efit+M 縦横断観測	B-E1-M53		
efit+M 平板観測	B-E1-M54		
efit+M 地籍観測	B-E1-M55		
efit+M Nikon通信OP	B-E1-M56		

■ 芯出観測に2点モード追加

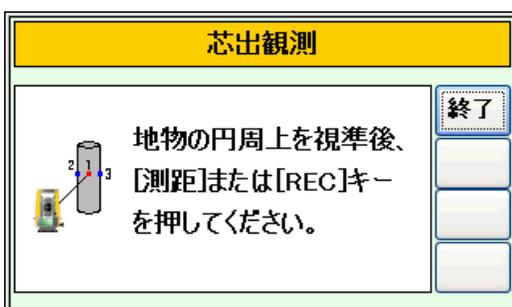
◆芯出観測(TS機能、割込機能)の機能に2点モードを追加しました。

※公共測量や精度が必要な測量には使用しないでください。



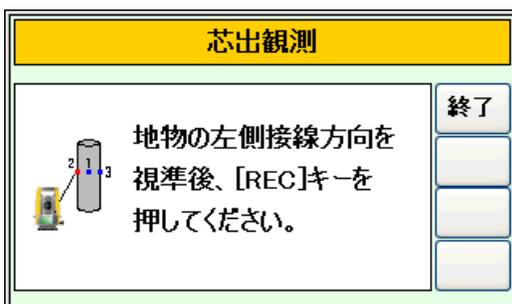
【モード選択画面】

2点を選択します。



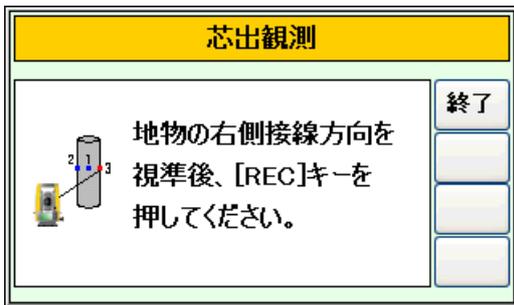
【地物計測画面】

地物の円周上の点を計測します。(角度、距離)



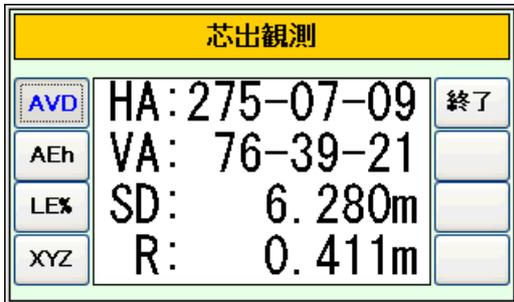
【左側接線計測画面】

地物の左側接線方向を計測します。(角度のみ)



【右側接線計測画面】

地物の右側接線方向を計測します。(角度のみ)



【結果画面】

HA(水平角)は、左右の接線の中心の角度を固定表示します。
VA(鉛直角)は、現在の鉛直角を表示します。
SD(斜距離)は、鉛直角に応じて計算した斜距離を表示します。
R(地物半径)は、地物の半径を固定表示します。

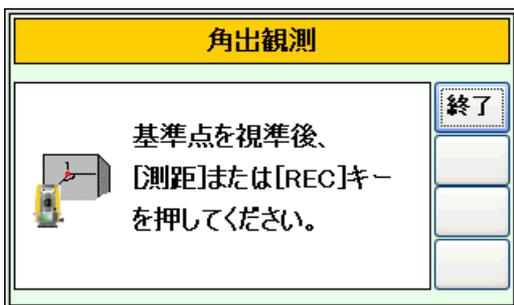
■ 角出観測に1点モード追加

- ◆角出観測(TS機能、割込機能)の機能に1点モードを追加しました。
2点モードより精度は劣りますが、危険で立ち入れない場所などで基準点を2点も観測できない場合に有効です。
しかし、計測点が基準点から離れるほど精度が劣化しますので注意してください。
※公共測量や精度が必要な測量には使用しないでください。



【モード選択画面】

1点を選択します。



【基準点計測画面】

基準点を計測します。(角度、距離)
この時点で鉛直面を構成します。

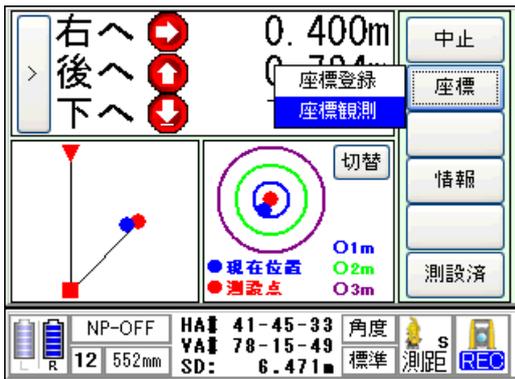


【結果画面】

HA(水平角)は、現在の水平角を表示します。
VA(鉛直角)は、現在の鉛直角を表示します。
SD(斜距離)は、計算した斜距離を表示します。

■ 測設に座標観測機能を追加

- ◆測設アプリケーションの測設中画面に座標観測機能(半対回)を追加しました。



【測設中画面】

[座標]ボタンを押してメニューを表示します。
メニューから「座標観測」を選択します。

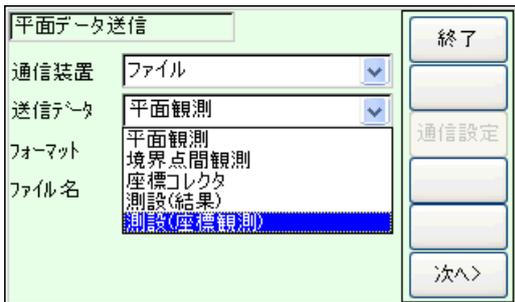


【座標観測画面】

座標を観測したい点を視準して[REC]を押します。
観測データが取り込まれると座標を表示しますので[登録]ボタンを押します。

■ 測設の座標観測データ送信機能を追加

- ◆平面データ送信で、測設アプリケーションで観測した座標観測の観測データを送信できる機能を追加しました。



【初期設定画面】

「送信データ」の選択リストに「測設(座標観測)」を追加して、
測設中に観測した座標観測データを送信できるようになりました。

以上